

学習環境はますます悪化！一刻も早い整備計画を！

「知的障がい支援学校の新校整備を求める請願」署名運動を大きくひろげよう

大障教ニュース

大阪府立障害児
学校教職員組合
大阪市天王寺区
東高津町7-11
府教育会館704号
TEL 06-6765-8904
FAX 06-6765-8905

大障教をはじめ、府内の障害者団体では、障害のある子どもたちにあたり前の学習環境を整備することを求めて、「府内各地域に知的障がい支援学校の新校整備を求める請願」署名を7月からとりくんでいます。この6年間で、16万2802筆の請願署名を府議会に届けました。

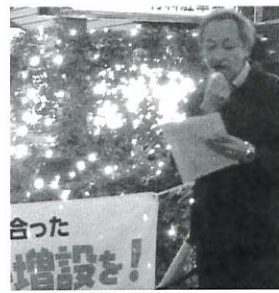
「もう限界！」知的障害支援学校の深刻な実態

この間、大障教では、府立支援学校の「教室転用、圧縮学級」の実態を調査してきました。

多くの学校では、特別教室だけでなく、教材室や更衣室など本来子どもたちが授業をおこなう環境になっていない部屋まで「普通教室」に転用してきました。しかし、毎年のように児童生徒数が増加し、これ以上転用する部屋が無いという学校も増えています。そのため、1クラスの人数を増やして「圧縮学級」にして対応せざるを得ません。特別支援学校設置基準において、1クラスあたりの児童生徒の



11/16 JR吹田駅
北摂豊能ブロック



11/15 近鉄上本町駅
市内中ブロック

人数は、小学部・中学部6人以下、高等部8人以下となっています。しかし調査報告では、小学部で7〜11人編成、中学部で7〜12人編成、高等部で9〜12人のクラスを学年で複数設置している実態があります。

さらに、学校の大規模化がすすむと、教職員配置の比率が低下します。「教員不足」のもと、小学部だけでも、「6、7人のクラスで担任2人」という編成の学校も複数あります。そこに、教員未配置も常態化しており、学習環境はますます悪化し、教職員の長時間過密労働につながっています。

各分会での署名活動や



11/13 阪急上新庄駅
市内北ブロック

各分会では、教職員をはじめ、PTAへの働きかけもおこなわれています。PTA役員との懇談をおこなった分会では、実態を知って、「今年もぜひ協力したい」と、保護者へも署名のとりくみがひろがっています。また、府立支援学校の「過大・過密」の現状と新校整備の必要性を市民に訴えようと、街頭署名宣伝



11/3 前堂公会堂
中央大障教執行部

2月府議会への署名提出に向けて

全力をこめて

「新校整備を求める請願」署名は、「子どもたちに豊かな教育を」「ゆとりのある働きたやすい職場環境を」という



11/23 枚方市役所前
北河内ブロック

「新校整備を求める請願」教職員の切実な願いに直接結びつく重要な署名です。2学期末から冬休みは署名をひろげる大きなチャンスです。府立支援学校で働く教職員のみならず、この機会に「家族や友人分も含めた署名への協力をあらためてよびかけます。各職場でもさらなる署名のとりくみをお願いします。」

街頭署名宣伝のとりくみ

行動がすすめられています。大障教では各分会・ブロック、地域よくすすむ会などと共同で、この間、府内9か所で宣伝行動をおこないました。署名を訴えようと、「学校が足りないんですね」「がんばってください」と快く署名される方、



11/8 JR天王寺駅
市内南ブロック

自ら「署名します」と声をかけてくださる方など、「昨年度の宣伝時より支援学校の実態が知られている状況がある」と各地から報告が寄せられています。12月14日(土)には、南海堺東駅で11時から署名宣伝を予定していますので、ぜひご参加ください。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局の カズシユウ

冊子には、学校生活の様子を写した数枚の写真が載せられている。そのうちの1枚は、先生が生徒の肩をマッサージしているシーン。生徒「アルバイト疲れるわ」、先生「がんばって学校に来たんやな」という会話が聞こえてきそう。

11月24日に筆者は教育のつどい大阪2024に参加し、分科会のなかで私立秋桜高校(以下、秋桜)の実践報告を聞いた。前述の写真は、その報告冊子のなかに載せられていたものだ。秋桜は、貝塚市にある単位制・通信制高校。基本的に希望者全員入学で中途退学者はほとんどいない。冊子の中に、「(暴力、性、自傷など)子どもたちは)さまざま問題を抱えたままやってくる」「私たちはその子たちに対し、校則や管理、競争や強制という力を使うことはしない」と秋桜のポリシーが語られている。

秋桜の生徒の半数は、高校中退後に入学してくる。不登校経験者も多いだろう。冊子には生徒の作文や声で紹介されている。高校中退を経験したある生徒の「あきらめかけた人生」という作文に胸を打たれる。「色んなことを学校(秋桜)でもして...でもやさしく怒ってくれる人がまだいると思ってる、やめようと思っただ。人との関わり方や人の愛に気付けた気がした。ありがとう秋桜」と。

秋桜では、生徒と先生は縁糸で呼び合い、敬語なし。生徒の職員室への入退室は自由(冊子には、生徒らが職員室でランチしている写真も)。秋桜の報告者は、「教師側が権威性をいっさいとせず、『対等』に出会うために二歩階段を降りて子どもと向き合う」と力説した。

2023年度の小中学生の不登校は34万人を超えて過去最多になった。学校が安心できる楽しい場所になっているだろうか。秋桜の実践は、鋭い問題提起だ。

(S)

第24回全国障害児学級・学校学習交流集会in滋賀

日程：2025年1月11日(土)～12日(日)

会場：大津市民会館 など

2日目

〇てんこもり講座 〇文化バザール

すぐに使える実践講座が盛りだくさん!

〇旬の実践分科会

全国からの実践レポートに学ぼう!

〇基礎講座

松島明日香さん(滋賀大学)

※詳しくは、案内ビラをご覧ください

昨年の「学習交流会in愛知」に参加しようと思ったきっかけは、オープニングのロックバンドのみなさんと記念講演の内容に惹かれたからでした。名古屋豊学校卒で結成35年目のバンド「BRIGHT EYES super-duper」。全身で音楽を楽しんでいる姿が印象的でした。竹沢清先生の記念講演は、終始笑いが起きるもので、子どもたちの見方・考え方を改めて問い直す機会にもなりました。2日目の分科会でも、司会の方が参加者の状況を確認しながら進めてくださり、初心者の方にも分かりやすいものになりました。

実りの多い交流会です。まだ、一度も参加されたことのない方は、ぜひ、気軽に参加してほしいと思います。

(生野聴覚支援分会 森脇浩允)

8月に「原水爆禁止世界大会(広島)」が開催され、日本各地はもとろん、カザフスタンやメキシコなど世界各国



原水爆禁止世界大会(広島)

不断の努力と平和な未来

からも広島に集まり、核兵器をなくし平和な未来をつくっていくことを確かめ合いました。

開会総会には会場に3200人、オンライン8000人、総勢4000人以上の参加がありました。主催者報告では、広島長崎の犠牲者に追悼の意を表するとともに、「平和」な時代に起こったチェルノブイリ原発事故や福島原発事故などについても述べられました。

フィールドワークでは似島を訪れました。似島の名前の由来は、富士山に「似ている」という説や、「荷の」島という説があるそうです。似島に降り立つととても静かで、戦跡が残っていることを微塵も感じさせないくらい「今の日常」という印象でした。そんな静かな似島が、かつては日清戦争・日露戦争で陸軍検疫所として使われ、第二次大戦で設置された爆薬庫の「跡」を残しています。原爆が投下された直後は、似島に残された薬を求めて、一人もの人々が運ばれたそうです。運ばれても運ばれても、みんな死んでいく。島に着いた安堵感か



平和公園ではボランティアの方から説明を聞きました



数の力は大きい! 地道に細く長く活動したい

藤井寺支援分会 牧 千琴さん



「組合に入ったら、ただでさえ忙しいのに、もっと忙しくなるから入りません!」初任の時に「組合に入らない?」と言われた時の私の答えです。私が初めて配属された堺養護学校は大きな分会があり、先輩たちには、ありとあらゆることを教えてもらいました。しかしプライベートでも土日忙しいところに、組合主催の勉強会やスポーツ親睦大会、保護者と一緒に行う行事などもあつたりして、組合は私にとって、ちっとも「ええやん」ではなく、「めっちゃめっちゃ大変やん!」でした。だから、冒頭のような答えになったわけです。

ただ、この言葉には続きがあります。「ただし、産休に入る時には、入ります! 安心して子育てできるのは組合のおかげだからです!」この言葉から、なが〜い不妊治療を経て、妊娠。産休に入る日に加入届を渡し、10年越しに約束を果たすことができました。産まれる前に子どもに障害が判明し、毎月複数の定期通院、毎週のリハビリがありましたが、週3勤務のおかげで退職することなく復帰することができました。復帰して1週間以内に緊急手術、翌月にR、Sウィルスからの半年間毎月入院、体温がこもる季節はほぼ毎日呼び出しがありましたが、「開いの年輪」をバイブルに乗り切ることができました。週3勤務で卒業学年を担任している時は「卒業式の日が勤務日ではないから、保護者席に座れ」と管理職に言われ、組合の先生たちが一緒に抗議してくれました。困った時には本当に頼りになる「ええやん組合!」になりました。

もう一つ「ええやん」と思うところがあります。団体交渉ができることです。患者会で行政交渉することがあるのですが、意外と対応してくれるものです。団体交渉する時に、数の力は大きいです。新しく加入してくれる人が増えるといいなあと思いつつ、私のように10年経って加入する人もいるから、地道に細く長く活動できたらいいなあと思います。

似島でのフィールドワーク



を求める世界各国からの声が集まりました。年齢も宗教も超えて、未来のために声をあげ

げ、5000人の参加者のものと、各地からの思いを綴ったペナントを掲げて「広島決議」が採択されました。広島を知り、語り継がれてきたことを受け止め、平和への思いを継承することが、私たち主催者一人ひとりに求められているのではないのでしょうか。

(寝屋川支援分会

樋口 真弓)